

「 小 論 文 」

〈60分〉

（注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。）

【問題】 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。（配点 100 点）

日本の衆議院の議長は、所属議員数が一番多い会派に所属する議員の中から、事前の協議で事実上の候補者が決められ、選出されるが、当選後、議長は所属会派を離脱するのが慣例となっている。これは非党派的に公正中立な議事運営を行うためである。

このようなあり方と全く異なるのが、アメリカ連邦議会の下院議長である。アメリカの下院議長は伝統的に下院多数党会派の事実上のトップであり、多数党が支持する法案を成立させる義務を、多数党会派に対して負っていると考えられている。大統領の所属政党と下院多数派政党＝下院議長の所属政党が異なっている場合（これはアメリカにおいてよくみられることである）、下院議長は大統領の反対党のトップとして、大統領に対する最も激しい批判者となることがある。

他方、イギリスの下院（庶民院）の議長は、非党派的な存在である。2024年5月現在において、その地位にあるのは労働党出身（イギリスの下院議長も就任時に党籍を離脱する）の議員であるが、議長に選出されたときの下院多数党は保守党であった。にも関わらず、下院副議長兼歳入委員会委員長としての実績が評価され、議長に当選したのである。さらに、イギリスでは、議長は政党政治の枠外にあり、総選挙で主要政党から対立候補を擁立されないのが慣例である。

これに比べると、日本の議長の非党派性や中立性いささか色あせて見える。衆議院議長は与党の長老格の政治家が最後に就任する上がりのポストとされてきた。議長を退任した後は、出身党派に戻り、党の最高顧問などの処遇を受ける。選挙も出身政党の一員として戦う。これでは、非党派的、中立公平といっても限界があることは否めない。

設問 日本の衆議院議長のあり方について、アメリカやイギリスの例と比較しつつ、論じなさい。